



# 令和4年度 東京都立花畑学園 学校経営報告

## I 今年度の取組目標【学校経営目標・行動計画】の自己評価 (高度に達成：◎ 達成：○ ほぼ達成：△ 未達成：×)

### 1 学びを止めない教育活動の推進

- (1) 体験、疑似体験等や成功体験を重視し、主体的・対話的で深い学びを踏まえた指導計画を構築  
(◎) →実際に触れ、体験できる芸術鑑賞会や交流学习を実施
- (2) 言語活動・芸術文化・障害者スポーツの充実(レガシーの継承)  
(◎) →ハンドサッカーやボッチャの指導、芸術鑑賞会を通じた学習の充実
- (3) タブレット端末ICT機器(on-line活用等)を活用した実践的な学習指導の推進  
(○) →タブレット端末、学習アプリを活用したデジタル教育研究
- (4) 「基礎・基本に戻る行事」と「新しい発想の行事」の定着  
(◎) →校外行事と宿泊行事の安全かつ充実した実施および地域と連携した学園祭やスポーツフェスティバルの実施
- (5) 自立活動やキャリア教育の充実を図るための環境整備と実践的な取組の推進  
(○) →スパイダーシステムや視線入力装置を活用した指導

### 2 教育全般の専門性の向上(研修活動の充実)

- (1) 学校スタッフの人権感覚の向上と体罰・不適切指導を起こさせない風土づくりの醸成  
(○) →服務研修の実施と外部講師を招聘した人権研修会の実施
- (2) 肢知両教育部門の協同・専門性を相乗させた授業改善に向けた研究活動の充実  
(○) →指導助言力の向上のための肢知相互授業参観を実施
- (3) 特別支援教育に関する専門性の向上に向けた研修の推進(センター機能含む)  
(○) →地域の小中高等学校への研修、相談、授業支援
- (4) 健康・安全・防災に関する知識・技能・専門性の向上  
(○) →外部講師を招聘した防災研修会の実施
- (5) 校外における研修を積極的に活用した専門性の向上  
(○) →専門性向上研修への参加128回
- (6) 外部専門員や近隣校と連携した授業改善の推進(授業改善推進プラン：準ずる課程)  
(◎) →外部専門員を活用した研修300回、近隣校と連携した授業改善5回

### 3 児童・生徒の生活全般のサポート・ケア及び地域等の支援連携の充実

- (1) キャリア・パスポートや事業所等を活用した切れ目のない進路の構築  
(○) →コーディネータ、進路主任を中心とした取組
- (2) 足立区・荒川区の福祉サービス等の理解及び相談事業所等との連携  
(○) →足立区と連携したイベント(オランダ連携、足立区クライフコートの活用)等の企画、実施
- (3) 学区域内小中学校及び都立学校への連携・支援と相談機能の推進  
(○) →地域の小中高等学校への研修、相談、授業支援

### 4 特色のある教育活動の推進(地域と学ぶ・育つ)

- (1) 地域の施設・外部人材を活用した学習及び交流学习の構築  
(◎) →近隣施設を活用した交流学习、地域と連携した学園祭の実施
- (2) 近隣の特別支援学校と連携し多面的な支援・相談体制の確立  
(○) →足立特別支援と学園祭やスポーツフェスティバルの交流、作業製品販売の実施等
- (3) 特別支援教育に携わる学生等の人材育成や地域の小学校・中学校・高等学校への理解推進

- (○) →学校見学や研修会の実施、参加者410名以上
- (4) 地域・保護者と共に学ぶ研修の推進
  - (○) →保護者参加型の外部講師を招聘した研修会の実施

## 5 安心・安全な組織体制及び環境整備の確立

- (1) 感染症予防対策の徹底及び環境整備を推進
  - (○) →花畑スタイルの励行による感染症対策の徹底・経営企画室と連携した環境整備を推進
- (2) 児童・生徒の健康を守るための学校保健活動等を推進
  - (○) →保護者、主治医、関係機関等と連携した個々の障害に応じた健康づくりを推進
- (3) 防犯及び自然災害等緊急時の対応・危機管理体制及び対応力の強化
  - (○) →警察や消防、行政機関との連携による体制強化による防災及び緊急時の対応を推進
- (4) インシデント・アクシデントの原因を分析し、分析結果に基づく再発防止策の徹底
  - (○) →事故の予見・ヒューマンエラーの防止を位置付けた学級経営及び学習指導
- (5) 教育効果・安全を意識した教室や特別教室の整理・整頓の強化
  - (○) →定期的な特別教室の整理、整頓
- (6) 施設設備等の維持・管理や健康と安全性の確保に係わる環境整備の点検
  - (○) →安全指導日による施設及び教材教具等の点検の徹底
- (7) 光熱水費使用量、ゴミ処理費等の削減、CO2削減の徹底
  - (○) →設備等のタイマー設定及び終業後の速やかな消費電力等光熱費の電源 off

## 6 組織的・機能的・主体的な学校運営の推進及び

- (1) 服務規律、個人情報管理を徹底（クリーンデスク、個人情報の収受の徹底等）
  - (○) →クリーンデスクデイの設定、個人情報管理用ファイルの活用
- (2) 「情報」を迅速に共有し、「共通理解」のもと組織として対応を図る。
  - (○) →臨時の企画調整会議、職員連絡会を実施し、組織的に情報共有を実施
- (3) 経営企画室と教員の連携し、執行率を意識した適正な学校予算の執行の実施
  - (○) →経営企画室と教員が連携した効率化を図った予算編成・予算執行
- (4) 主幹教諭、主任教諭が核になる学校運営を強化及び校務のノウハウを蓄積し確実な引継の徹底
  - (○) →主幹会を中心とした組織的な運営
- (5) 適切な電子起案での決済の推進
  - (○) →電子起案の実施率100%

## 7 喫緊の教育課題解決のための取組の推進

- (1) 「学校における働き方改革推進プラン」（H30年2月）に基づく働き方改革の推進
  - (○) →マイ定時退庁日の設定及び1日当たりの在校時間10時間以内の推進
- (2) 各種ハラスメントの防止・根絶、職員の健康増進及びメンタルヘルスの向上
  - (○) →各種ハラスメントへの即時対応・管理職とのコミュニケーションの充実
- (3) 児童・生徒の精神的自立を促す医療的ケアの推進（保護者の付添短縮化）
  - (○) →医療的ケア安全委員会を活用した全校的な医療的ケアの推進

## II 学校評価アンケートに基づく評価

今年度の本校の教育活動への取組について、学校評価アンケートを実施した。各設問における肯定的評価の割合は、下記のとおりであった。肯定的な回答が大多数を占めており、経営目標が達成できていると考えている。少数意見についても、学校評価の最終まとめでは改善すべき事項として受け止め、対応を示した。

肯定的評価の割合 (令和3年度の割合)		保護者全体	教職員全体	放課後等 デイサービス事 業所	学校運営連絡 協議会委員
Q1	学校生活について	98.4% (95.0%)	99.4% (98.4%)	97.6% (87.2%)	100% (100%)
Q2	人権配慮について	98.7% (99.0%)	98.3% (99.0%)		100% (100%)
Q3	感染症対策に対応した 教育活動について		100% (100%)	97.6% (95.7%)	
Q4	授業内容・手立てについて	98.7% (98.3%)	98.9% (99.5%)		100% (100%)
Q5	専門性の協同・相乗について		97.3% (97.4%)		100% (100%)
Q6	学校との連携について	98.0% (97.3%)	98.3% (98.4%)	100% (89.4%)	
Q7	感染対策について	98.7% (98.0%)	99.4% (100%)		100% (100%)
Q8	進級・進学について	86.0% (80.0%)	97.3% (94.8%)		
Q9	関係機関との連携について	92.3% (85.4%)	97.3% (98.4%)	92.7% (87.2%)	100% (100%)
Q10	ライフ・ワーク・バランスについて		80.7% (84.9%)		100% (92.3%)

## III 次年度に向けて

令和4年度は、感染症対策を行いながらも、校外行事やスポーツフェスティバル、学園祭の実施など一歩一歩前に進みながら教育活動を進めてきた。ただ行事を復活させるだけでなく、地域が集う・つながる取り組みなど、新しい形の教育活動を模索してきた。

学校行事等については、すべての学年、学習グループで遠足や社会見学などの校外学習、移動教室や修学旅行などの宿泊行事を実施することができた。安全で充実した実施に向けて、企画、運営、実施の流れを確認しながら取り組み、全学年の系統性も考慮して計画的に実施した。次年度以降も見直しを行いながら実施していく。学園祭やスポーツフェスティバルについては、ユニバーサルリレーや地域・進路ブースの設置など地域と連携して実施した次年度もさらに充実したものとなるよう計画、実践していく。

研修等に関しては、学びの拠点としての花畑学園として、介護等体験の学生だけでなく、看護学生や医学生、足立区の初任者研修の教員など受け入れを行った。外部からの参加者は410名以上となった。次年度も、本校が地域の特別支援教育の拠点となることができるよう、発達障害や医療的ケア等の学びの場として、近隣の小中、高等学校や大学等、関係機関との連携を更に深めていく。

校内の研修としては、全教員に研修ポートフォリオを配布し、教員個々のニーズに合わせた研修を計

画的に実施した。授業ガイドラインに基づく、授業力向上シートを作成し、自己申告の面接で報告するようになった。次年度も「東京都教員研修計画」に準じながら学び続ける教員の育成に努める。

P T Aや放課後等デイサービス事業所、足立区や荒川区といった関係行政機関との連携を更に密にすることができた。足立区との防災協定の締結や都立北療育医療センター城北分園から防災時の受け入れについて連携を図ることを取り決めるなど、本校の施設を生かして地域の防災の拠点としての役割を明確にしていくことができた。次年度も、関係機関と連携を図りながら防災の拠点として、さらに充実できるように、計画的に進めていく。

I C T機器の活用として、外部専門家を招聘し、視点入力装置やスイッチ機材の工夫などデジタルを活用した教育の充実を図った。今後も、個別最適化された学びや子供同士の主体的・対話的な学びなどを促進していく。

次年度も本校が多様な学びの場、安心・安全の場、集う場となり、地域に根付いていくための取組を計画・実践していく。